

■「教育のつどい 2010」アピール

父母・国民、教職員みなさんに呼びかけます

憲法の本質にもとづき、子どもの権利条約を生かして、子どもたちを大切にせる教育を

—— みんなの力をあわせて、21世紀の未来をひらく教育をつくりましょう ——

子どもたちと教育の未来に心を寄せるすべてのみなさん

8月20日から3日間、和歌山で開催した「教育のつどい 2010」は、全国から集まった多くの父母・国民、教職員、子どもたちの参加と熱心な子ども論議・教育論議によって、大きく成功しました。「みんなで21世紀の未来をひらく」、集会名称に込められた子どもたちと教育への思いを共有し、みんなの力で、すべての子どもたちの成長と発達を保障する教育を実現しようと熱い討論が展開された3日間になりました。

「生の声、現場の声、問題意識を持った目を見た状況、そして今後の展望を聞くことができ勉強になった」

こうした感想がたくさん寄せられました。これは、過去最高の27団体で構成され、16団体の賛同も得た実行委員会による共同のとりくみとして開催された「教育のつどい 2010」が、教育をみんなの力でつくっていかうとする意気込みにあふれ、具体的な実践に踏み出そうとする重要な一歩となったことを示しています。また、県内36団体があつちりとスクラムを組み、「教育のつどい」の成功に向けて、猛暑のなかで奮闘いただいた地元・和歌山のみなさんの姿は、地域から積み上げた県内8地域でのブレ企画の大きな成功とともに、全国から参加した教職員、父母・国民への大きな激励となりました。「教育のつどい 2010」を支え、奮闘いただいた和歌山のみなさんと全国からの参加者のみなさんに心から感謝を申し上げます。

「教育のつどい 2010」では、7つのテーマで開催された教育フォーラム、開会全体集会、子ども参加の特設分科会を含む29分科会で、子どものこと、学校のこと、教育のこと、これらを取りまく社会の問題がたくさん話し合われました。全体集会での作家・落合恵子さんの講演「いのちの感受性～あなたへのメッセージ」は、自らの生い立ちや母への思いを語りかけることを通して「生きること」を問い直し、参加者から多くの共感が寄せられました。「『生きていることは、捨てたもんじゃないよ』という言葉がじ～んと心に響いた」「涙しました、久しぶりに止めることなく…、本当にいのちは結ばれている」などの感想は、落合講演を象徴しています。

分科会でも全国から寄せられた400本を超えるレポートを中心にしながらの論議に、「明日からの元気をもらった」などたくさんの感想が寄せられました。討論は、子どもたちをめぐる深刻な状況や教職員の困難がリアルに語られながらも、なごやかな、あたたかい雰囲気にも包まれながらすすめられました。子どもたちへの限りない信頼と共感、教育の未来への深い確信を土台にした論議が特徴となり、地元・和歌山の地域に根ざした粘り強い教育実践や教育運動が全国からの注目を集めました。県内から参加された父母・保護者が、口々に和歌山の教職員の努力、教職員組合への感謝の言葉を述べられたのも印象的でした。「和歌山の教育に学び、持ち帰って生かそう」、全国の参加者が率直に語る姿もありました。実行委員会を構成する労働組合、民主団体から34本のレポートが発表され、地域からの市民、父母・保護者による20本を超えるレポートも加わって、分科会の論議を深め、みんなの力でこそ学校、教育はつくることができると参加者の共通の確信となりました。

「教育のつどい 2010」は、長年の教育運動が切り拓いてきたすべての子どもたちにゆきとどいた教育を保障するための教育条件の一つの転換点で開催されました。「30人学級の実現、教職員定数の抜本的改善」の願いが30年にわたる厚い壁を突破できるかどうか。「子どもたちは社会の宝、その成長・発達を保障する教育は無償に」の願いが、公立高校授業料不徴収の到達を私学の無償化も含めてさらに前にすすめることができるか。子どもたちも苦しめる貧困と格差拡大を食い止め、子どもたちの暮らしと教育を守る輪を大きくすることができるか。一つひとつが今日のもっとも重要な教育課題です。教育の中身を充実させるとともに、それを支える教育条件の改善を一体のものとしてすすめることの重要性が口々に語られました。そのためにも、教育政策を抜本的に転換させることが重要だと指摘され、各地のとりくみを通じた展望が語りあわれました。子どもと教育を大切にせる政治を実現し、みんなで21世紀の未来をひらきましょう。

「教育のつどい 2010」には、たくさんの青年が参加し、自らの教育実践に関わる率直な悩みも出しながら論議がすすめられました。開会前日には、昨年に引き続き青年レポーターを囲んだ学習と交流の輪がつくられ、青年のもつ感性と確かな子ども観、実践に共感が広がりました。教育フォーラムや分科会の論議、全体集会での青年の率直な感想が参加者の感動を呼んでいます。青年のかがやきと多くの参加者のあたたかいまなざしは、憲法や教育そのものが持っている値打ちや力が確かめあわれたこととあわせて、21世紀の教育をつくりだす大切な力です。広島市の被爆者の語りにも涙した小学生をはじめ、「子どもたちとともに平和の文化を」というテーマを生かした子ども参加の特設分科会の成功によって、子どもたちとともに未来への希望をつくりあげるという確かな方向性を持つこともできました。

「教育のつどい 2010」は、本日、すべての日程を終えます。

全国からご参加いただいたすべてのみなさん、子どもたちと教育の未来に心を寄せるすべてのみなさん。

「教育のつどい 2010」で学びあったことを全国各地に持ち帰り、子育て・教育に生かしましょう。「教育のつどい 2010」の到達点と教訓を、学校と地域に広げて、憲法の本質にもとづき、子どもの権利条約を生かし、子どもたちの成長と発達を保障する教育を力をあわせてつくりあげましょう。心から呼びかけます。

2010年8月22日

「みんなで21世紀の未来をひらく教育のつどい—教育研究全国集会 2010」実行委員会